

天文学とプラネタリウム

第133回



今月のお題

光を知れば、宇宙が広がる

国際光年に合わせて光図をリリースしましたので、そのお話。



www.tenpla.net

高梨直紘 (東京大学)
平松正顕 (国立天文台チリ観測所)

NZで星空案内人になるツアー、参加者募集中!

2015年は国際連合の定めた国際光年(ひかりねん)。世界中で光や光技術に関する教育・普及事業が行われていますが、日本でも日本学会議に設置されたIC0分科会と国際光年協議会が中心となって、さまざまな活動が進められています。知ってました?

さて、宇宙と言えば光。光と言えば宇宙。「光あれ」という宇宙は始まったそうですから、まあ当然ですね。天文学分野はCosmic Light(宇宙からの光)というカテゴリで国際光年に参加しており、日本でもワークショップやイベントなどが始まりつつあるようです。

天プラでも、この国際光年に合わせてカラブロック「colormy」を使った分光ワークショップなどを実施していますが、それだけじゃありません。作っちゃいました。光をテーマにしたポスター、その名も「光図(ひかりず)」。科学技術広報財団より、4月1日に発売されました。直球ど真ん中の男気溢れる名前ですが、かなり重い球を投げ込んだつもりです。いったいどんなポスターなのか、紹介しましょう。

光図

光図は、名前の通り、光を扱ったポスターです。制作には宇宙図を作った美術家の小阪淳さん、クリエイティブ・ディレクター/コピーライターの片桐暁さん、それに天プラの面々があたりました。ご覧の通り、宇宙図、太陽系図と共通のデザインになっており、並べて貼ることができるようになっています。中央にあるメインビジュアルを取り囲むように左上から「光で見る」、「光で考える」、「光を見る」、「光を考える」という4つのパートが取り囲む構造をしています。

私たちが光を使って宇宙を観測する時に知っておくべきことをまとめたのが「光で見る」パート、宇宙における光の振る舞いを手がかりに宇宙自体の構造を理解することを目的にしたのが「光で考える」パートです。このふたつは、いずれも光を手段として捉え、それを使って宇宙を理解することを目的としたパートです。

一方で、光の不思議な性質についてまとめたのが「光を見る」パート、そもそも光とはなんであるのか、より本質的な理解に迫ろうとする



文字が多く、画像が少ない潔さが魅力です。

のが「光を考える」パートです。このふたつは、いずれも光それ自身についての理解を深めることで、世界のあり方に切り込んでいくことを目的としたパートです。

最初は身近な話題から始まりつつも、気がつけば場とは性質だけの存在である…と喝破するところまで入り込んでしまうのが、この光図のおそろしさ。ポスター1枚のサイズに宇宙を理解するためのヒントがたくさん含まれた作りになっています。科学技術広報財団のサイトより購入可能ですので、気になった方はぜひ買い求めを!